

子どもと支援教育を支える
『個別の教育支援計画』



エーツー

A² 『個別の教育支援計画』 ツール

～概要と操作方法マニュアル～

A²研究会 事務局
岩山 カイナ

メニュー

1. 「個別の教育支援計画」の役割と課題
2. A²『個別の教育支援計画』ツールの特色
3. A²『個別の教育支援計画』ツールの操作方法
4. 学習指導要領の段階判定
カリキュラムマネジメントとしての活用

1. 「個別の教育支援計画」の役割と課題

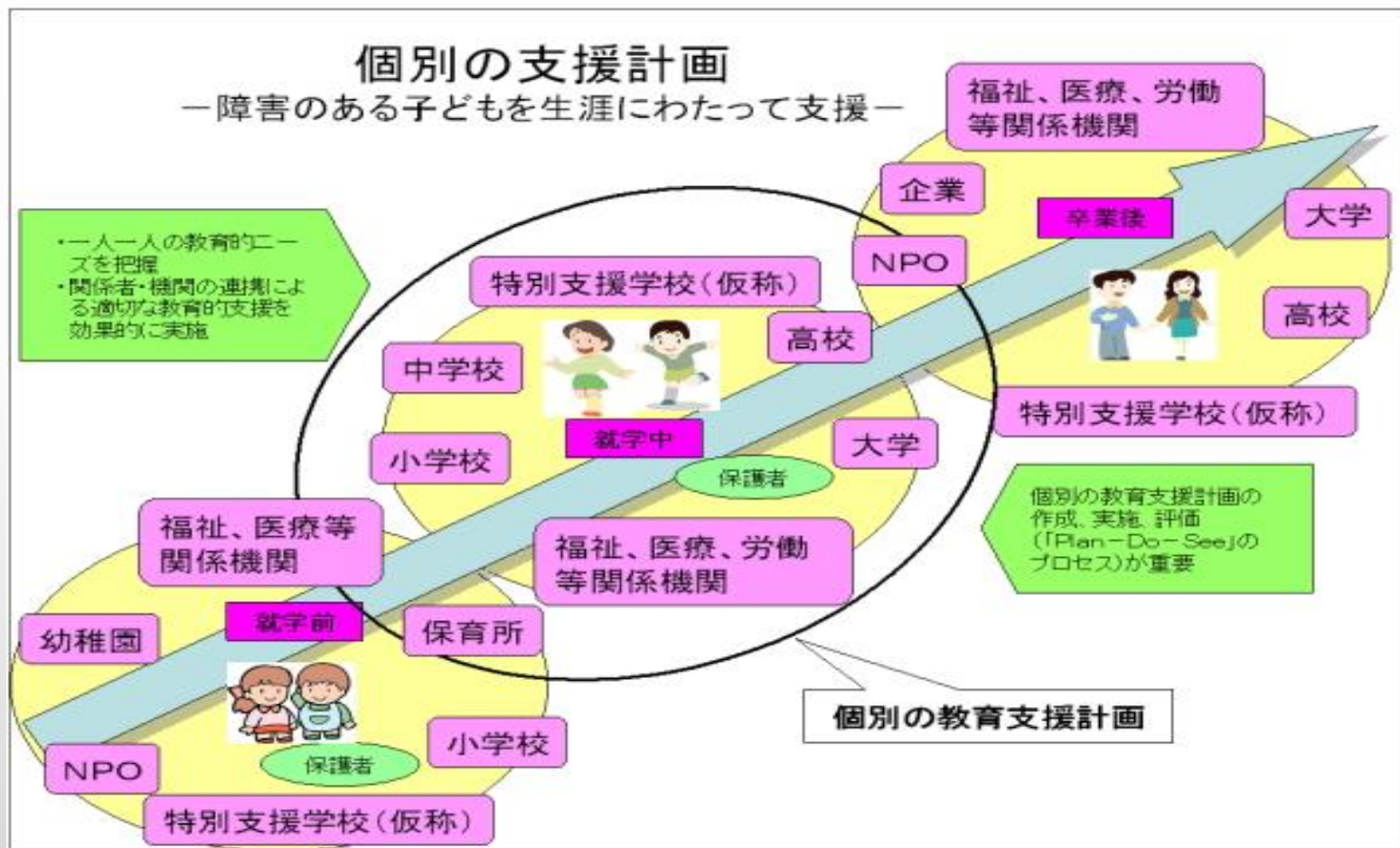
「個別の教育支援計画」

障害のある子ども一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的とする。

また、この教育的支援は、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組が必要であり、関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠である。

文部科学省HP

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361230.htm



出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

「個別の教育支援計画」の策定に関する実践的研究 17項 (平成18年)

「個別の教育支援計画」は 特別支援教育・インクルーシブ教育の鍵

アメリカのIEP (Individual Education Plan)

アメリカでは、子どものニーズに応じて、どのような配慮や支援を受けることができるのか、保護者が学校と契約を結びます。内容は、支援内容や方法のみでなく、カリキュラムの調整も含まれます。

子どもの適切な教育・支援を受ける権利を守るために、IEPの内容が適切に実行されているかを監視する行政機関が、教育機関とは別に設置されています。

また、IEPは、連動する客観的なアセスメントに基づくものである必要があるとされています。



※インクルーシブ教育の場面では、より個々のニーズに注目しなければ、適切な教育を受けることができません



『個別の教育支援計画』 ツール Ver. 1.2

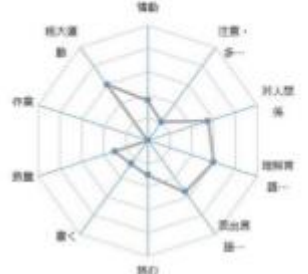
新任からできる実態把握 ぜひご活用ください

支援計画の作成で、目標設定や評価に悩んでいませんか？ 「A² 個別の教育支援計画」は現場の先生方をお助けする便利ツールです。実態把握（新学習指導要領に対応した発達アセスメント）から合理的配慮を導き出すと共に、子どもの経年変化を記録することができます。

① 支援のための「発達アセスメントツール」としての活用

情報	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	学習意欲が旺盛で、自分の思い通りに行動し、助けを求めない。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	プリントするが読み取れず、その意味も理解できず、その場で読むことに集中できない。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	大人数の集団では、自分の発言の機会を確保できず、話しにくいことがある。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10	漢字の読み書きが、漢字の読み書きが苦手である。	●	●	●	●	●	●	●	●	●

発達段階を選び、クリックするだけ！



- 小学部2段階
- 小学部3段階
- 中学部1段階
- 中学部2段階

新学習指導要領の段階分けにも活用可能

「得意」と「課題」をその場で視覚化！

② 「合理的配慮のアイデアリスト」を参考資料として収録

項目	注意・多動	対人関係	理解困難（書く）	他者理解（話す）
1	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
2	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
3	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
4	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
5	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
6	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
7	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
8	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
9	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。
10	授業中に立ち回ったり、机を叩いたり、机を蹴ったりする。	授業中に他の生徒の話を聞かずに自分の話を続ける。	漢字の読み書きが苦手である。	相手の話を聞かずに自分の話を続ける。

実態把握リーダーや子どもの課題に応じて、適切な配慮をらくらく検索！

※ 様式は、幼保・小・中高に対応しています。



- ③ 「校内／他機関連携」を強化
- ④ 「実態～目標～支援～評価」の関連性を深化
- ⑤ 3～18歳までの「経年変化」を把握
- ⑥ 「愛着・情動面の支援ニーズ」に対応

エーラー

A² (Assessment and Accommodations)

様式を通じた課題解決と支援教育の充実

協力：
 平成30年度～令和元年度
 大阪教育委員会
 支援教育地域支援整備事業 大阪市ブロック
 大阪府立支援学校、大阪市内幼稚園/小中学校

編集：A²研究会

A² 『個別の教育支援計画』 ツール開発の背景

地域支援先の校園で見られる「個別の教育支援計画」の課題

(1) 作成する教員の力量で内容に大きな差

例) 実態把握の根拠があいまい

「目標」「支援方法」「評価」の妥当性に問題

(2) 経験の少ない教員が支援学級担当を担うことへの
支援の必要性

(3) 情動に課題のある幼児児童生徒への指導・支援に
関する相談の多さ

2. A²『個別の教育支援計画』ツールの特色

エーツー

A² (Assessment and Accommodations)

経験年数が少なくても作成しやすく、活用できる



- (1) 正しい実態把握ができて、学習指導要領の段階がわかる
- (2) 支援方法を考えるヒントがある
- (3) 合理的配慮を考えるヒントがある
- (4) 入力データを活用し指導・支援の経年変化を確認できる

A²『個別の教育支援計画』 ツール 特徴

- ① 【支援のための発達アセスメント】
 - ・ 学習指導要領の段階、自立活動の区分
- ② 【合理的配慮アイディアリスト】
 - ・ ICFの視点の重視（社会参加への配慮）
- ③ 幼稚園・保育所／小学校（特別支援学校 小学部）／
中学・高校（特別支援学校 中学部・高等部） 多校種対応
- ④ 指導・支援の評価を経年で確認（3～18歳まで）
- ⑤ RTIモデルの活用と他機関連携
- ⑥ 情動面（行動/感情/情緒）の支援ニーズ考慮

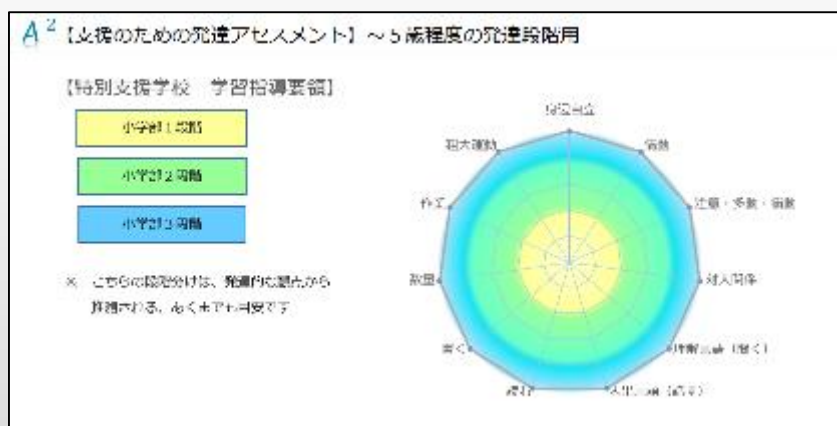


日米の大学教授の
協力の基に作成

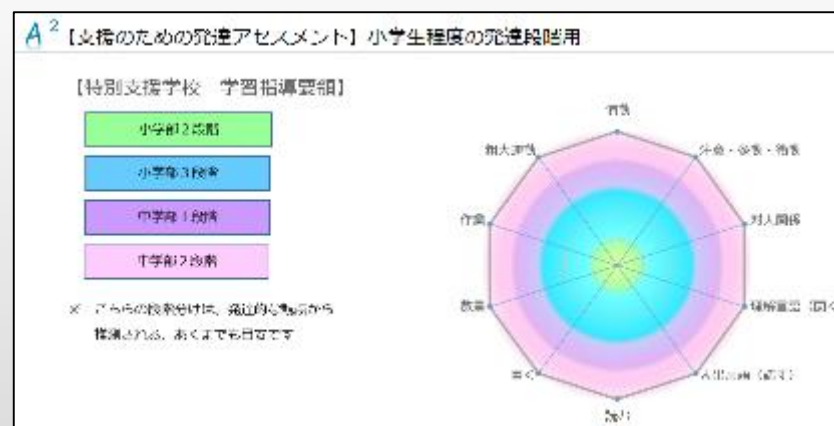
① 発達の観点と学習指導要領に対応した 【支援のための発達アセスメント】

- ・ 学習指導要領の段階判定、自立活動の区分の記載

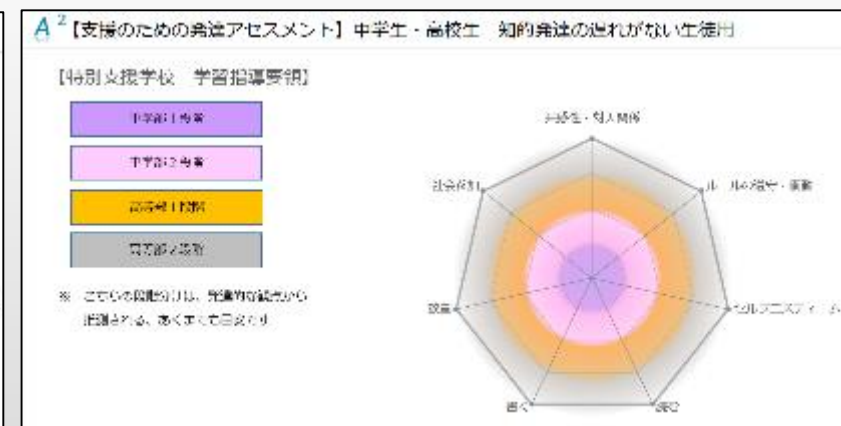
A² 【支援のための発達アセスメント】（3種類）



0～5歳程度の知的発達



小学生程度の知的発達



10歳以上の知的発達
(知的発達の遅れがない)

【合理的配慮などの支援方法アイディアリスト②】

主要課題	【情緒面の課題】 大きい気配にする	【ADHD症状】 大きい範囲にする	【向対スペースの特性】	【読み書き・算数の課題】	【知的発達の手遅れ】 大きい気配にする	【換気性運動の課題】	【場面転換】		
	集団参加、環境コントロールの課題 気配性など、活動間	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的な行動・行付けし難さ	社会性や取り、対人トラブルなど 対人関係・こだわり	読み・書き・算数が学習の 部分的な課題	学習全般、ことば、身体自立など 全体的な課題	運動・作業など身体性の使い方が 不器用	場面転換		
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	異種への様々な参加方法を認める。(教室の中 に入ることにこだわらずに) (10-1-1)	教室や注意すべきポイントが明確に伝わるよう に、やり方や指示を声の値で提示する。やり方 の具をみせる (10-1-1)	各々の活動に視覚的な指示・合図または、手帳 を提示する (10-1-1)	1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	授業者が目の前でやり方の具を見せ、理解を サポートする (10-1-1)	児童・生徒が主体的に活動できるように、明確 なスケジュール表を提示し、ステップごとの課 事を正確に伝える (10-1-1)	活動のコントロールが難しい。あるいは能力や 体力不足が原因で活動保持ができない場合は、 ずっと同じ姿勢で活動するのではなく、立って 活動に参加する (10-1-1)	サインやカードを使用して、表現しやすい ようにする (10-1-1)	
	5人以下の少人数の集団から徐々に大きい集団 に参加できるようにする (10-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (10-1-1)	教室の隅々(休憩室)に 行ける静かな場所(休憩室)を用意し、必要 に応じて利用する (10-1-1)		各々の活動に視覚的な指示・合図または、手帳 を提示する (10-1-1)	児童・生徒が得意な活動を持って学習できる活動 付けをするために、ステップごとに自己チェッ ク表を作成する (10-1-1)	体が固直を直すやすくなるために使う道具や機 材に慣れさせる (10-1-1)	自己表現が自由になれる他、ワークなどの活動 を多く取り入れる (10-1-1)	
	児童・生徒にわかりやすい、具体的に明確な指 示のルールを作る (10-1-1)	指定できる位置を工夫する (10-1-1)	自己刺激行動によ る行動が繰り返される場 合、その行動を減らすた めに、手に持 たせる (10-1-1)		読むことへの不安やストレスが強いにならないよう に、活動内容を調整する (10-1-1)	活動するグループを少人数に分け、集中を促す (10-1-1)	簡単な動作や新しい動作を練習するときには動作 の順序を見せたり、目まがかり強めな がるできるように位置や姿勢を調整させる (10-1-1)	反応ごとに一緒に活動する場面では、安心できる 声かけや声援によって活動させるようにする。 (10-1-1)	
	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を 日々のルーティンの中に組み込む (10-1-1)	教室の隅がしきりに静か、休憩をしたいときに 行ける静かなスペースを設ける (10-1-1)	初めは1対1の指導を行い、 活動に移行していく (10-1-1)		読み・書き・算数の課題がある場合は、 個別指導や小グループ指導などを行う (10-1-1)	児童・生徒が積極的にグループ活動に関われる ように役割を調整する (10-1-1)	小グループで活動する際に、構造的な活 動に結びつけるなど、学習スキルをい る活動の中で消化できるように活動内容を組み 立てる (10-1-1)	不安感を軽減し安心して活動ができるように、 言葉での説明に代えて視覚的に見せるなど視覚 的に伝える (10-1-1)	
	対人関係や円滑なコミュニケーションをとるた めの指導として、ソーシャルスキルの指導を行 う (10-1-1)	指導者が目の前でやり方の具を見せ、理解を サポートする (10-1-1)	授業活動などの場面で得意な思考や 合、イラストする前に、質問が繰り返 される (10-1-1)		児童・生徒がサポートなしでもできる日常の課 題を1つか2つ決めておき、グループの責 任を分担する (10-1-1)	児童・生徒が主体的に活動できるように、明確 なスケジュール表を提示し、ステップごとの課 事を正確に伝える (10-1-1)	必要に応じて、児童・生徒が主体的に活動する ように調整する (10-1-1)	安心して一日を過ごすことができるように、必 要なスケジュールを提示する (10-1-1)	
	不適切な発言を助長させないようにするた めに、不適切な発言に対しては反応を控える (10-1-1)	集中できるように小さな声で発言を促 す (10-1-1)							
	安心できる環境、活動場所、活動内容を提供す る。書きや読みを促す (10-1-1)	不適切な発言を助長させないようにする に、不適切な発言に対しては反応を控 える (10-1-1)							
	指導者は声に抑揚や落ち着いたトーンで対応 し、児童・生徒の情動(気持ちや態度)な安 定を助ける (10-1-1)	集団への様々な参加方法を認める。(中 に入ることにこだわらずに) (10-1-1)							
	情動的(気持ちや行動)な変化を促すために、 指導者は正面から向き合うのではなく、児童・ 生徒の横に並んで指導や会話を行う (10-1-1)	児童・生徒にわかりやすい、具体的に明 確なルールを作る (10-1-1)							
	異種への様々な参加方法を認める。(教室の中 に入ることにこだわらずに) (10-1-1)	少人数集団から徐々に大きい集団に参 加できるようにする (10-1-1)							
児童・生徒にわかりやすい、具体的に明確なク ラス内のルールを作る (10-1-1)	場面に応じて、本人のやる気をサポートする 様々なもの(活動・教材など)を活用する (10-1-1)	好きな活動の後に好きな活動ができるようにス ケジュールを調整する (10-1-1)				新着の仕事や作業をよくできるように単純な作 業過程を提示する (10-1-1)			
部屋の電気を暗くする・作らぬ話し方で ゆっくり話しかけるなど、刺激が強い環境 を減らす (10-1-1)	各々の活動に視覚的な指示・合図または、手帳 を提示する (10-1-1)	場面に応じて色々な本人のやる気をサポ ートするものを使う (10-1-1)				児童・生徒が主体的にグループ活動に関われ るように役割を調整する (10-1-1)			
刺激の量に配慮して、必要な事項を端的に伝 える (10-1-1)	主体的に活動できるように、目的をはっきりさ せ、構造化した活動にする (10-1-1)	刺激量が多くなりすぎないように配慮して、必要 事項を端的に伝える (10-1-1)				得意な活動に挑戦できている時には、他 の子によって行動を強化し、主体的に活動で きるようにする (10-1-1)			
活動のペースを促すために、個別のスケジュール 表を作成し、活動に備えさせる (10-1-1)	集中しやすいように、目的をはっきりさせ、 構造化した活動にする (10-1-1)	授業の終わりをはっきりさせる。場面の切り替 えが難しい時は、お茶会や授業の合間に工夫 した活動にする (10-1-1)				必要以上にやり直しをさせず、取り組んでいる 課題を評価する (10-1-1)			

診断名・集団参加が難しい・落ち着きがない
・読み書きが苦手など、課題からみる



③ 多校種に対応

- 幼稚園・保育所
- 小学校（小学部）
- 中学・高校（中学部・高等部）

幼稚園・保育園

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
 『個別の教育支援計画』幼稚園・保育園

はじめに 該当する をクリック

幼稚園 保育園	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
------------	--------	--------	--------

【使用方法】
 1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

小学校・特別支援学校（小学部）

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
 『個別の教育支援計画』小学校・支援学校（小学部）

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
〜5歳児 特別支援 学級	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生 特別支援 学級	中1	中2	中3	高1	高2	高3

【使用方法】
 1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

コミュニケーション・学習
生活スキル等の選択に
留意が必要です

発達
障害
児
の
学
級
に
関
する
注
意
点

発達
障害
児
の
学
級
に
関
する
注
意
点

発達
障害
児
の
学
級
に
関
する
注
意
点

中学・高校
特別支援学校（中学・高等部）

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
 『個別の教育支援計画』中学・高校・支援学校（中学・高等部）

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
〜5歳児 特別支援 学級	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生 特別支援 学級	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 特別支援 学級	中1	中2	中3	高1	高2	高3

【使用方法】
 1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

コミュニケーション・学習
生活スキル等の選択に
留意が必要です

発達
障害
児
の
学
級
に
関
する
注
意
点

発達
障害
児
の
学
級
に
関
する
注
意
点

発達
障害
児
の
学
級
に
関
する
注
意
点

④ 指導・支援の評価を経年で確認（3～18歳）

幼稚園・保育園

と書ようになったこと、その経年変化 【様式3】

	3歳	4歳	5歳	転学時/別添紙
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係				
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係				
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係				
その他 特別支援				

小学校
特別支援学校（小学部）

評価と経年変化 【様式3】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係						
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係						
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係						
その他 特別支援						
小学部/小学部への 転学時						

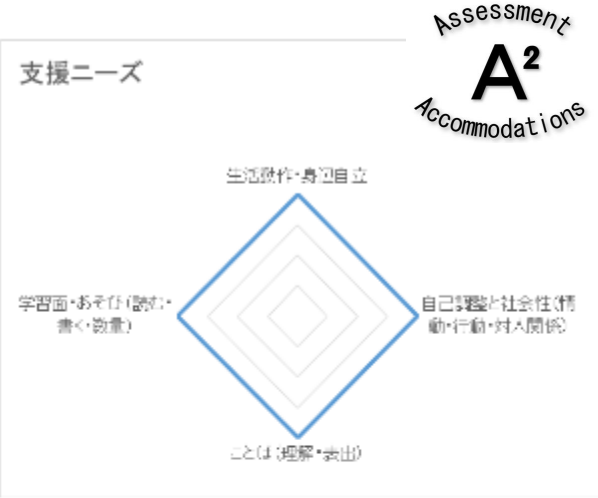
中学・高校
特別支援学校
（中学・高等部）

評価と経年変化 【様式3】

	中1	中2	中3	高1	高2	高3	評価・実習時/別添紙
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係							
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係							高部/別添紙 (認知・運動)
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係							
【特別支援】 認知発達 運動・行動 対人関係							
その他 特別支援							
高等部/中等部への 転学時				卒業時/別添紙			

⑤ RTIモデルの活用と他機関連携

支援ニーズ		Ⅲ段階	Ⅱ段階	Ⅰ段階	
		常に個別の 配慮や支援が 必要	部分的に 個別支援が 必要	集団全体へ 向けた小さな 配慮でできる	支援を必要とし ない
支援 ニーズ の レベル	① 生活動作・身辺自立	○	○	○	●
	② 自己調整と社会性（行動・情緒・対人関係）	○	○	○	●
	③ ことば（理解・表出）	○	○	○	●
	④ 学習面（読む・書く・数量など）・あそび	○	○	○	●



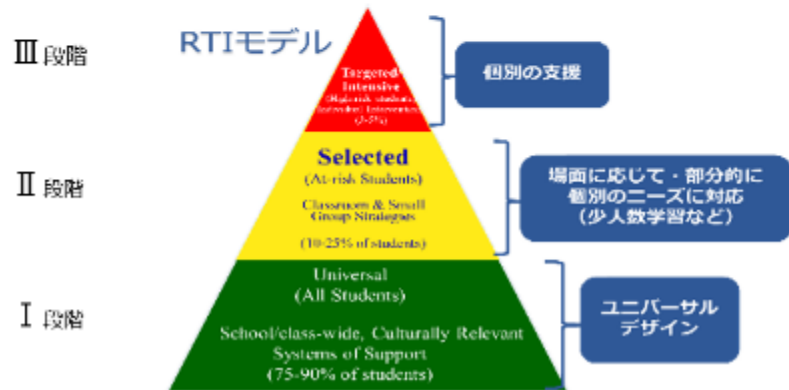
RTIモデル

Ⅰ段階：ユニバーサルデザイン
全体へ向けた小さな配慮

Ⅱ段階：状況に応じて、部分的に
個別の支援が必要

Ⅲ段階：常に個別の支援や配慮・
対応が必要
(常に援助を要する)

校内／他機関 連携シート 戻る



⑥ 情動（行動/感情/情緒）面のニーズを考慮

主な関連項目の色分け	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的に行動する	社会的やり - 対人トラブル
	大きい画面	集団参加	大きい画面
	情動（感情・行動）	注意・多動	対人
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間 を日々のルーティンの中に組み込む (①-1-1)	グループで活動する時のルールを明確に する (①-1-1)	教室の騒がしさがも たすに行ける静かなス ペースを設ける (①-1-1)
	対人関係や円滑なコミュニケーションを とるための権限として、ソーシャルスキ ルの権限を行う (①-1-1)	安定できる座席を工夫する (①-1-1)	自己刺激行 動が見 られる 場合 は、 その 行動 を 促 す た め に 活 用 す る (①-1-1)
	不適切な興奮を助長させないようにする ために、不適切な興奮に対しては反応を 減らす (①-1-1)	些細なことで怒っているが気づけるよう、自 分でチェックできるようにする (チェッ ク票の活用等) (①-1-1)	初めは一対一の権限 を 使 用 し て 、 そ の 後 に グ ル ー プ 活 動 に 移 行 し て い く (①-1-1)
↓ コミュニケーション 学習 など			

機能上の都合により、
セルのコピーはできません

主な課題	【情動面の課題】 大きい画面にする	【ADHD症状】 大きい画面にする	【自閉症】 大きい画面にする
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的な行動・片付けに課題	社会的
	集団への様々な参加方法を認める。(教室の中 に入ることにとらわれずに) (①-1-1)	教示や注意すべきポイントが明確に伝わるよう に、やり方や指示を目の前で提示する。やり方 の見本をみせる (①-1-1)	各々の活動 を明示する (①-1-1)
	5人以下の少人数の集団から徐々に大きい集団 に参加できるようにする (①-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (①-1-1)	教室の騒が しさを 減らす た め に 行 ける 静 か い ス ペ ー ス を 設 ける (①-1-1)
	児童・生徒にわかりやすい、具体的で明確な話 す際のルールを作る (①-1-1)	安定できる座席を工夫する (①-1-1)	自己刺激行 動が見 られる 場合 は、 その 行動 を 促 す た め に 活 用 す る (①-1-1)
↓ コミュニケーション 学習 など			

情動面に課題のある対応が難しい子ども → 事前の合理的配慮が要！

A² 『個別の教育支援計画』 ツール

操作方法



A² 『個別の教育支援計画』 ツール 特徴

まずは、このページからはじめます

ページ移動は
ボタンクリックで！



1. 名前を記入（様式全体に反映される）
2. 所属学年（横軸）、おおよその発達年齢（縦軸）で、該当ボタンをクリック

幼稚園・保育園

小学校・特別支援学校（小学部）

中学・高校
特別支援学校（中学・高等部）

『個別の教育支援計画』幼稚園・保育園

名前

姓

はじめに 該当する [ボタン] をクリック

幼稚園 保育園	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
------------	--------	--------	--------

【使用方法】
1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

『個別の教育支援計画』小学校・支援学校（小学部）

名前

姓

はじめに 該当する [ボタン] をクリック

発達年齢	中1	中2	中3	高1	高2	高3
～5歳程度 知的発達 知的発達程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 知的発達程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3

コミュニケーション・学習
生活スキルに際して
該当ボタンがある

内省的コミュニケーション
基礎的学習層が広がる

内容的学習の達成に際して
該当ボタンが広がる

【使用方法】
1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

『個別の教育支援計画』中学・高校・支援学校（中学・高等部）

名前

姓

はじめに 該当する [ボタン] をクリック

発達年齢	中1	中2	中3	高1	高2	高3
～5歳程度 知的発達 知的発達程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 知的発達程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 知的発達程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3

コミュニケーション・学習
生活スキルに際して
該当ボタンがある

内省的コミュニケーション
基礎的学習層が広がる

内容的学習の達成に際して
該当ボタンが広がる

【使用方法】
1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

A2 『個別の教育支援計画』 ツール 特徴

まずは、このページからはじめます

1. 名前を記入（様式全体に反映される）
2. 所属学年（横軸）、おおよその発達年齢（縦軸）で、該当ボタンをクリック

ページ移動は
ボタンクリックで！

CHECK!!



A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ ご意見・ご質問：T-IwayamaK@medu.pref.osaka.jp

『個別の教育支援計画』 中学校／中学部・高等学校／高等部

ふりがな							ひらがな入力：文字入力→Escキー→Enter	編集一覧
名前							名前を入力 ⇒ 全ての様式に反	

はじめに 該当する **をクリック**

発達年齢・スキル		中1	中2	中3	高1	高2	高3
		～5歳程度 就学前の知的発達段階	中1	中2	中3	高1	高2
小学生程度 知的発達段階		中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 知的発達・運動発達の遅れがない生徒		中1	中2	中3	高1	高2	高3

選択
☆印
↓

コミュニケーション・学習生活スキルの獲得に顕著な課題がある

円滑なコミュニケーション基礎的な学習ができる

全般的な知的発達・運動発達に関する課題は見られない

発達年齢の選択に迷う場合は、小学生程度知的発達段階をお選びください

トップページ

ここをクリック

A² 【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

学年	学年	ふりがな	
	1	名前	

はじめのページ
発達年齢選択に戻る

まちがったら
ここから戻る

【様式1】表紙

手順1 フェイスシート



2年目以降は
変更箇所のみ訂正

【様式2】

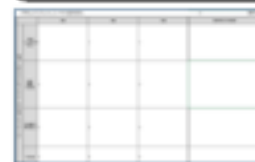
手順2 実態・目標・支援



様式3に
自動で反映

【様式3】

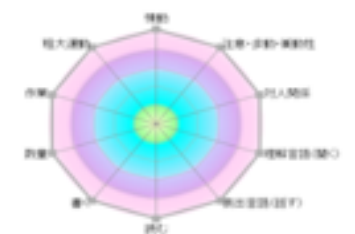
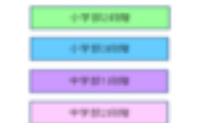
手順3 評価・経年変化



※卒業時
記入箇所あり

「支援のための発達アセスメント」
【様式2】から入れます

【特別支援学校 学習指導要領】



【付録】支援・ケース会議等用

校内/他機関 連携シート

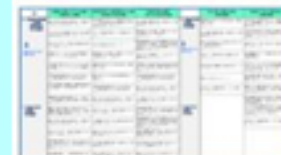


必要に応じて活用

様式2 参考資料

合理的配慮など支援方法のアイデア集①
(実態把握レーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②
(子どもの課題・指導場面から検討)



【様式1】～【様式3】
印刷して完成

【様式1】フェイスシート

1. フェイスシートに記入
2. 記入が済んだら、
該当トップページへ戻る



個別の教育支援計画

担当教員 _____

名前		診断名・疾患等の記載				
		診断名				
生年月日 (西暦)	年 月 日	診断 機関				
学校名		健康医 (アレル ギー・眼疾 等)				
住所						
連絡先						
保護者						
支援機関		療育手帳	年	月	日	交付 交付
		身体手帳	年	月	日	交付 交付
		福祉手帳	年	月	日	交付 交付
生育届 (特記事項)						

療育・相談等の状況	医療・療育・	療育・相談・支援内容
		<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	
	<input type="checkbox"/> 療育中 <input type="checkbox"/> 療育済	



【様式2】 実態・目標・支援・評価

ここをクリック

A² 【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ 『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）


年度	学年	ふりがな	
	1	名前	

はじめのページ
発達年齢選択に戻る

まちがったら
ここから戻る

【様式1】表紙

手順1 フェイスシート



2年目以降は
変更箇所のみ訂正

【様式2】

手順2 実態・目標・支援



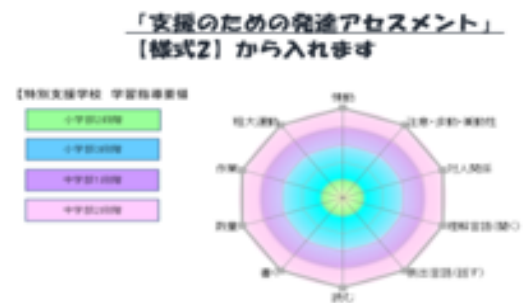
様式3に
自動で反映

【様式3】

手順3 評価・経年変化



※卒業時
記入箇所あり



【付録】支援・ケース会議等用

校内/他機関 連携シート




必要に応じて活用

様式2 参考資料

合理的配慮など支援方法のアイデア集①
(実態把握リーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②
(子どもの課題・指導場面から検討)



【様式1】～【様式3】
印刷して完成

【様式2】 実態・目標・支援・評価

【様式2】 実態把握～目標・支援方法～評価

目標・支援方法・評価は、子どもに対して必要事項のみ検討
(目標にしない部分を除く)

実態把握

全学年共通な目標設定のアイデア集
(共通のシレーターから抽出)

全学年共通な目標設定のアイデア集
(子どもの個性・発達段階から抽出)

実態・目標・支援方法

中学部 1年

【様式2】

本人/保護者の氏名		所属学年/社会科等の 科目・課題		性別
				性別
評価者の 氏名	実態把握	目標設定	支援方法	評価
	【西】目標と 社会性 行動・行動 対人関係			
評価のための標準アセスメント				
<p>シート作成</p>		<p>【ことば】 理解力, 表出能力</p> <p>【字書】 読み・書き 練習</p>		
アセスメントシートが評価者からわかる 実態・課題 (チャートの中心と外)		【発達動作】 運動・感覚 身体自立		
実態の 把握の ポイント		その他 観察事項		
評価の ポイント				
評価に添えたい 関心・得意なこと		次年度に引き続き 関心・得意なこと		

ここをチェック!

1. 実態→目標→支援方法がつながっているか
2. 評価にどんな時に、どんな状況でという
内容が入っているか
3. 目標は子どもの実態に合った、達成できそうな
内容か
4. 支援方法は具体的で明確か

どのような状況で評価の中でできたのか
(例)

- 小さいグループの中で...
- 手帳を見ながら...
- 指導者と一対一の場面で...
- 事前に感覚遊びをして...
- 添え書くことができた後...

トップページ

【様式3】

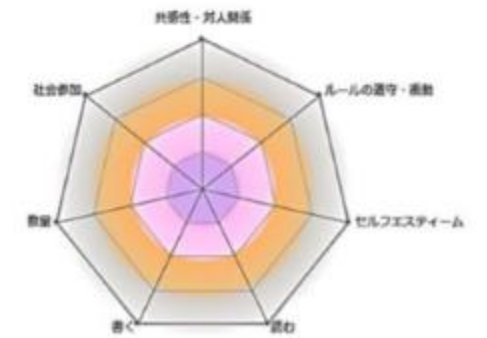
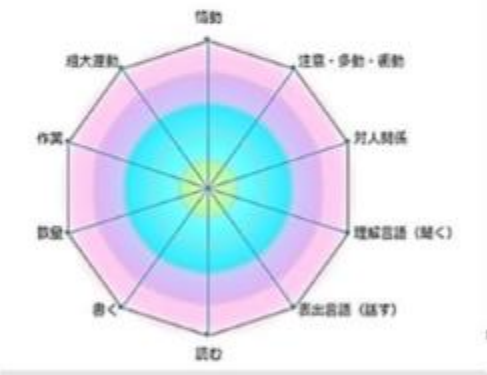
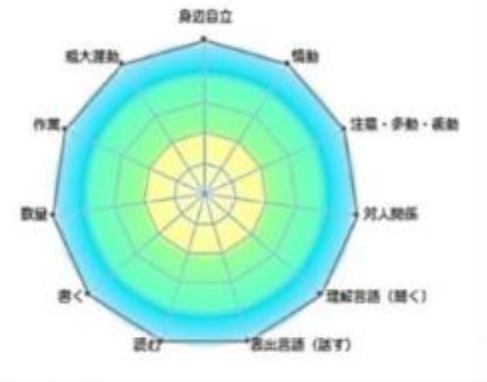
NEXT→
評価・経年変化

【様式2】 実態把握を記入

- ①～③を記入（保護者・検査等の情報参考）
- 支援のための発達アセスメントへ

実態・目標・支援方法		江		担当	
本人/保護者の願い		ここをクリック		地域生活 社会参加の 様子・課題	日付 日付
実態把握		書き方例	長期目標	合理的配慮などの支援方法	
請検査の記録		[自己調整と 社会性] 情動・行動 対人関係			
支援のための発達アセスメント					
シート作成		[ことば] 理解言語・ 表出言語			

A² 『個別の教育支援計画』 アセスメントの用語説明



身辺自立

トイレ・着替え・食事など、身辺処理

情動

感情・行動・情緒・集団参加

注意・多動・衝動

注意のコントロール・多動性・衝動性

対人関係

社会性・共感性・集団学習

理解言語 (聞く)

集団場面の中で聞く力・言葉の理解

表出言語 (話す)

意思を伝えるスキル・集団場面での表出

読む

文字やシンボルからの理解

書く

書字・漢字

数量

算数・量的な知識と理解

作業

微細運動・手と目の協応・手の巧緻性

粗大運動

身体全体を使った動き・協調運動

A2 「支援のための発達アセスメント」やり方

支援のための発達アセスメント (～5歳程度の発達段階用) 【様式2 (実態・目標・支援) 戻る

名前 _____

【個別の指導計画】等活用資料

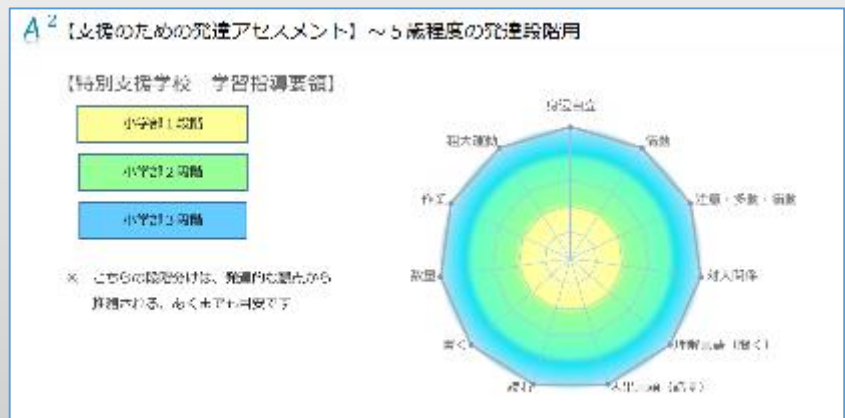
【記録したい(例)でも、個別指導】

発達領域	項目	説明	できる	部分的にできる	できない	主観的な区分	【個別の指導計画】等活用資料	学年
身辺自立	1	①	両手でコップなどの容器を持ち自分で飲む	●	○	○	4(4),5(3)	小学部
	2	②	スプーンなどを使って自分で食べる	●	○	○	4(4),5(3)	小学部1段階
		③	トイレで便座に座らせると排泄する	●	○	○	1(1),4(4),5(5)	
	3	④	一人で、パンツを脱ぐ・履く	●	○	○	4(4),5(3)	小学部2段階
		⑤	おしっこを事前に大人に知らせる	●	○	○	3(1)(2),4(1)(4),6(2)	
	4	⑥	靴を一人ではく	●	○	○	4(4),5(3)	小学部3段階
		⑦	ティッシュを使って自分で鼻をかむ	●	○	○	1(1),4(4)	
		⑧	お風呂で自分で身体を洗う	●	○	○	4(4)(5),5(3)	
		⑨	大便秘に自分でおしりを拭く	●	○	○	4(4)(5),5(3)	
		⑩	用途に合わせて服を選ぶ	●	○	○	4(4)(5)	
			合計	20				

【記録したい(例)でも、個別指導】

質問項目をクリック
→自動で様式に反映

【様式2】自動反映



実態・目標・支援方法 小学部 1年 0 担当 _____ 【様式2】

本人/保護者の願い	地域生活 社会参加の様子・課題	話したい 強み・良さ	目標
諸検査の記録	実態把握	長期目標	合理的配慮などの支援方法
支援のための発達アセスメント			
アセスメントシートや検査からわかる得意なところ・課題なところ (チャートの中心と同)			
得意点 (得意に流れる・伸びる)			
課題点 (得意以外の)			

次年度に引き継ぎたい情報・特別な手立て

【様式2】へ戻る

- 得意凸と課題凹を選択

ここを一回クリックすると、
右上に選択ボタンが出る

→選択する

空欄にしたいときは、選択肢の
一番上または下の空欄をクリック

学習のための発達アセスメント

シート作成

アセスメントシートや諸検査からわかる
得意なところ・課題なところ (チャートの凸と凹)

得意凸 (指導に活かす・伸ばす)		
課題凹 (支援の検討)		

理解シートや諸検査からわかる
得意なところ・課題なところ (チャートの凸と凹)

得意凸 (指導に活かす・伸ばす)	<ul style="list-style-type: none">学習[読み・書き・数算]対人関係注意・行動情緒[感情]生活動作[身辺自立・運動・作業]	[注意・行動]
課題凹 (支援の検討)	[生活動作] 身辺自立・運動・作業	

【様式2】 実態把握を記入

実態把握		書き方例	長期目標	合理的配慮な
諸検査の記録	[自己調整と社会性] 情動・行動 対人関係			
支援のための発達アセスメント				
作成	[ことば] 理解言語・ 表出言語			
	[学習] 読み・書き 数量			
アセスメントシートや諸検査からわかる 得意・課題（チャートの凸と凹）				
得意凸 支援に活かす ・伸ばす	[生活動作] 運動・作業 身辺自立			
課題凹	その他			

- 箇条書き、簡潔に記入
- 書き方がわからない → 書き方例

実態把握 書き方の例

地域生活・社会参加の種類・課題 例) 大人と一緒に地域のお祭りに参加している	地域生活・社会参加の種類・課題 例) 地域のお祭りに参加している 少年野球チームに所属している
---	---

中学・高校
「地域生活・社会参加」は下方枠内

資料：実態把握 書き方例

※ここに書かれた通りの表現で書く必要はありません

就学前発達段階(～5歳)		小学校発達段階(5歳～12歳)		中学校・高校発達段階(13歳～)	
【ことば】 聞く・話す 例) ・2語文で話す ・「ん、ん」と言いながら指差して伝える ・ことばで呼びかける代わりに突然相手の手を引っ張る	【ことば】 聞く・話す 例) ・家族や親しい人との日常会話は両邊にできる ・話の結論に関連する単語を単発に話しだすことが多い ・相手だてで話し相手に伝えることが苦手 ・語彙が少ない	【ことば】 聞く・話す 例) ・ことばの表現は豊富であるが、意味理解が表面的である ・数字に問題があり、単純計算の習得ができていない ・読み書きが苦手、英語の習得が難しい ・家庭では両邊にコミュニケーションが取れるが、学校でことばを覚えることが難しい。			
【学習場面】 あそび 例) ・両を動かすことができる ・大小を区別して書く事ができる ・電車の走る方向がわかる ・いつも決まったコマを見る	【学習場面】 あそび 例) ・文字を書くことに時間がかかるが興味強く丁寧に書くことができる ・漢字の読み書きが苦手 ・電車の図鑑を見るのが好き	自己認識と社会性 例) ・片付けが苦手 ・集団の中でのコミュニケーションがうまくとれず、一人で行動することが多い ・不安が多い ・緊張が強く、臆れやすい ・イライラしていることが多く、指導者や友達への悪意がある			
【対人関係】 例) ・大人との一対一のやり取りができる ・大人の仕事をまねる	【対人関係】 例) ・大人とのコミュニケーションは取れるが、友だちや集団の中ではうまくいかない、対人恐怖になることがある	地域生活・社会参加 例) ・趣味場に参加している(パソコン等) ・好きな電車のイベントに自分で参加している ・カードゲームの大会に参加している			
【注意・行動】 例) ・興味があるものを見つけたら、突然走り出してしまふ ・遊びへの集中が続き、いろいろな玩具で次々に遊ぶ ・友だちを叩く・髪を引っ張ることがある	【注意・行動】 例) ・机やロッカーの中が散らかっている ・注意を奪めるために、突然大声を出す ・反抗することができない	その他 特別事項 例) ・口を大きく開くマウスのような症状が見られる			
【感情面】 情緒・感情・行動 例) ・感情の起伏が激しく、怒ると大きなかんしゃくを起こす ・1人になってすねる ・怖くおどこを叩く音がある	【感情面】 情緒・感情・行動 例) ・なやとしたまっかかけですぐに泣いてしまふ、気持ちを抑えきれぬのに時間がかかる ・突然に大声を上げて怒りだすことがある ・友だちのなやとしたまっかかけに、直ぐに感情的になる	その他 特別事項 例) ・大きな集団が苦手、体育館での集会などの場面に参加することができない ・口を大きく開くマウスのような症状が見られる			
【生活動作】 身体自立・運動・社会 例) ・トイレはおもむき立っているが、大便をよき取る際に手助けが必要 ・履き替わりに必ずしも必要とする	【生活動作】 身体自立・運動・社会 例) ・トイレはおもむき立っているが、大便をよき取る際に手助けが必要 ・履き替わりに必ずしも必要とする	その他 特別事項 例) ・通常に方引きで何度も警察に逮捕されている			

次年度に引き継ぎたい情報
 例) パニックを起こす前のサインとして「～悪い子」「自由だからいい」などの発言が見られる。


【様式2】 実態・目標・支援方法を検討

横の関連性を大切に

参考資料

合理的配慮など支援方法のアイデア集①
(実態把握リーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②
(子どもの課題・指導場面から検討)

実態把握		支援方法	長期目標	合理的配慮などの支援方法	評価
諸検査の記録	[自己調整と社会性] 情動・行動 対人関係				
支援のための発達アセスメント					
作成	[ことば] 理解言語・ 表出言語				
	[学習] 読み・書き 数量				
アセスメントシートや諸検査からわかる 得意・課題 (チャートの凸と凹)					
得意凸 支援に活かす ・伸ばす	[生活動作] 運動・作業 身辺自立				
課題凹 支援の検討	その他 特記事項				

合理的配慮など、
支援方法アイデア
(参考資料)

表の見方

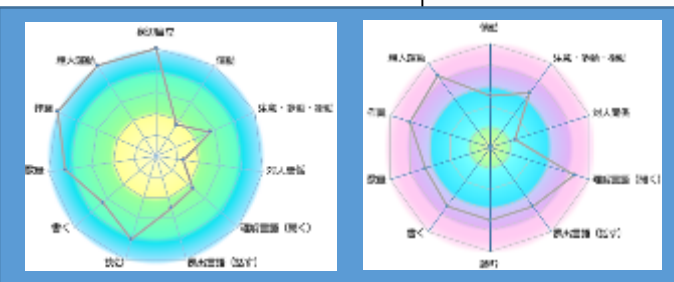
縦軸 (指導場面)

横軸 (特性) で見る



① 合理的配慮など支援方法アイディアリスト (実態把握リーダーから)

参考: () 合理的配慮の観点 子どもの実態・状況に
※本様式においては、合理的配慮の観点について明確に
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyō/chukyō



関連項目の色分け	合理的配慮の観点	
	集団参加、感情コントロール、攻撃性など、情動面	衝動的に行動する
	大きい画面	大きい画面
	情動 (感情・行動)	注意・多動
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を日々のルーティンの中に組み込む (①-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (①-1-1)
	対人関係や円滑なコミュニケーションをとるための指導として、ソーシャルスキルの指導を行う (①-1-1)	安定できる座席を工夫する (①-1-1)
	不適切な発言を助長させないようにするために、不適切な発言に対しては反応を控える (①-1-1)	整理整頓ができていないが気づけるように自分でチェックできるようにする (チェック票の活用等) (①-1-1)

② 合理的配慮など支援方法アイディアリスト (子どもの課題・指導場面から)

参考: () 合理的配慮の観点 子どもの実態・状況に
※本様式においては、合理的配慮の観点について明確に
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyō/chukyō

診断名・行動特性

課題	【情動面の課題】 大きい画面にする	【ADHD症状】 大きい画面にする
	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しない 衝動的な行動・片付けに課題
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	集団への様々な参加方法を認める。(教室の中に入ることにとらわれずに) (①-1-1)	指示や注意すべきポイントが明確に伝わるより方や指示を目前で提示する。やり方の見せる (①-1-1)
	5人以下の少人数の集団から徐々に大きい集団に参加できるようにする (①-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (①-1-1)
	生徒にわかりやすい、具体的に明確な話す際のルールを作る (①-1-1)	安定できる座席を工夫する (①-1-1)
	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を日々のルーティンの中に組み込む (①-1-1)	教室の縁がしきから離れ、休憩をしたとき静かなスペースを設ける (①-1-1)

参考資料 から【様式2】へ戻る

- 所属学年（横軸）と発達段階を選択、トップページへ戻る

**① 合理的配慮など支援方法アイデアリスト
(実態把握リーダーから)**

参考：() 合理的配慮の観点 子どもの実態・状況に応じてご確認ください
※本様式においては、合理的配慮の観点について明確にする必要はありません
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/046/siryo/attach/1314384.htm

【様式2】 目標・実態把握・支援方法のページに戻る

～5歳 (就学前の発達段階)	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 知的発達段階	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 知的発達の遅れがない生徒	中1	中2	中3	高1	高2	高3

関連項目の色分け	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的に行動する	社会ややり取りの課題 ・対人トラブルなど対人関係
----------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------

自立・学習・ことばなどの 全般的な課題	場面転換
------------------------	------

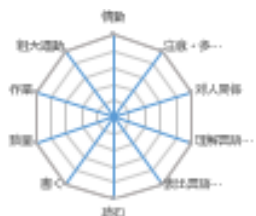
大きい画面 情動 (感情・行動)	大きい画面 集団参加	大きい画面 注意・多動
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を 日々のルーティンの中に組み込む (0-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (0-1-1)
		教室の騒がしさから離れ、休憩をしたいとき に行ける静かなスペースを設ける (0-1-1)

このシステム上
1. 実態→目標→支援方法のつくりかたの
2. 目標と実態から、どの発達段階の
課題の入力か
3. 目標が子どもの実態に合った、達成できるか
4. 実質合理的配慮で明確か

どのような配慮も、子どもが受け取れるか
(例)
・声のボリュームを下げ…
・休憩室を見学…
・目標達成までの達成度…
・学習内容の難易度…
・進捗確認の回数…

- 箇条書きで簡潔に書く
- どのような条件・セッティング（3人程度の少人数などでできたのか）を記入する

実践・目標・支援方法 中学部 1年 [様式2]

本人/保護者の思い		所属する社会科領域の 様子・課題		目標	
実践の要		実践方法	長期計画	実践の進捗状況と支援方法	
実践者の 氏名		[所] 実践と 社会科] 活動・行動 対人関係			評価
実践のための発達アセスメント					
シート作成 		[ことば] 発話内容・ 発話内容			
アセスメントシートや発達検査からわかる 強み・課題（アートのひと図）		[言葉] 読み・書き 算数			
実践の 実施の 実施の		[実践の] 活動・内容 実践の			
実践の 実施の		その他 実践の			
実践に活かしたい 強み・得意なこと		実践に活かしたい 強み・得意なこと			

【様式3】に評価・経年変化を確認

- 卒業時は、引継ぎ欄を記入
- 発達段階選択の変更があった場合は、コピーで手入力Ver.使用

【様式2】から自動的に反映
基本はこちらを使用 →ファイルから印刷

手入力Ver.
(必要に応じて)

【様式2】で記入
※経年に伴い、知的発達年齢範囲の変更がある場合は、
【様式2】からコピーで手入力Ver.をご使用ください

評価と経年変化

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
【知的発達年齢範囲】 社会性 言語・行動 対人関係						
【認知能力】 知覚・運動 言語 / 【学習】 読解・書く 計算						
【生活動作】 運動・作業 生活動作						
その他 補記事項						

手入力Ver.の印刷:
印刷範囲をドラッグして選択→[ページレイアウト]
印刷範囲の設定→印刷

評価と経年変化

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
【知的発達年齢範囲】 社会性 言語・行動 対人関係						
【認知能力】 知覚・運動 言語 / 【学習】 読解・書く 計算						
【生活動作】 運動・作業 生活動作						
その他 補記事項						

手入力Ver.のみ
印刷設定必要

【様式3】手入力Ver.を使用・印刷する場合

②

手入力
Ver.

①
ドラッグで
印刷範囲を選択

	小4	小5	小6
評価と経年変化			
【自己調整と社会性】 情動・行動 対人関係			
【ことば】 読解書解 表出書解 ／ 【学習】 読む・書く 数量			
【生活動作】 運動・作業 身の自立			
その他 特記事項			

中学校／中学部への
印刷範囲

①印刷範囲を選択

②ページレイアウト
→印刷範囲の設定
→ファイルから印刷

【様式1】～【様式3】を印刷 活用へ

シートごとに印刷 ※一括印刷はできません

A² 【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

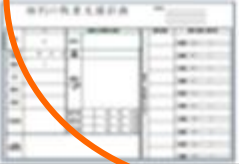
はじめのページ
発達年齢選択に戻る

まちがったら
ここから戻る

年度	学年	ふりがな	
	1	名前	

【様式1】表紙

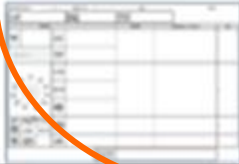
手順1 フェイスシート



2年目以降は
変更箇所のみ訂正

【様式2】

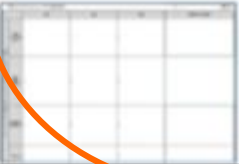
手順2 実態・目標・支援



様式3に
自動で戻す

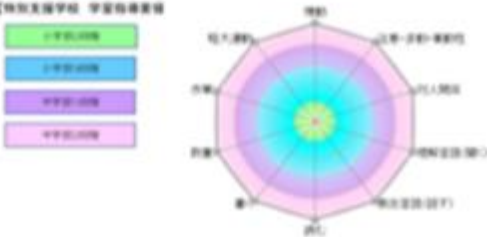
【様式3】

手順3 評価・経年変化




※卒業時
記入部所あり

「支援のための発達アセスメント」
【様式2】から入れます



【付録】支援・ケース会議等用

校内/他機関 連携シート




必要に応じて活用

様式2 参考資料

合理的配慮など支援方法のアイデア集①
(実態把握レーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②
(子どもの課題・指導場面から検討)



【様式1】～【様式3】
印刷して完成

もしページを間違ったら・・・

A²【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

はじめのページ
発達年齢選択に戻る

【様式1】表紙
手順1 フェイスシート
2年目以降は
変更箇所のみ訂正

【様式2】
手順2 実態・目標・支援
様式3に
自動で反映

【様式3】
手順3 評価・経年変化
出席記録
記入箇所あり

【付録】支援・ケース会議等用
校内/他機関 連携シート
必要に応じて活用

様式2 参考資料
合理的配慮など支援方法のアイデア集①
(実態把握リーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②
(子どもの経験・指導場面から検討)

「支援のための発達アセスメント」
入力枠

どの年齢のトップページでもOK!
このボタンがあります

幼稚園・保育園

小学校・特別支援学校（小学部）

中学・高校
特別支援学校（中学・高等部）

A²【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』幼稚園・保育園

幼稚園
保育園

はじめに 該当する をクリック

3歳児クラス
4歳児クラス
5歳児クラス

【使用方法】
1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

A²【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』小学校・支援学校（小学部）

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
～5歳程度 特別支援 学校等	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 特別支援 学校等	中1	中2	中3	高1	高2	高3

コミュニケーション・学習
生活スキル等の獲得に
留意が選択できる

内省的コミュニケーション
基礎的学習を行うことも
できる

【使用方法】
1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

A²【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』中学・高校・支援学校（中学・高等部）

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
～5歳程度 特別支援 学校等	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 特別支援 学校等	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 特別支援 学校等	中1	中2	中3	高1	高2	高3

コミュニケーション・学習
生活スキル等の獲得に
留意が選択できる

内省的コミュニケーション
基礎的学習を行うことも
できる

体系的な学習の達成に際する
課題が見られやすい

【使用方法】
1. 児童生徒1人につき1ファイルでご使用ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

【付録】 校内／他機関連携シート

- ・校内体制・ケース会議・他機関連携などで活用

ここをクリック

A² 【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

年度	学年	ふりがな	
	1	名前	

はじめのページ
発達年齢選択に戻る

まちがったら
ここから戻る

【様式1】表紙

手順1 フェイスシート

2年目以降は
変更箇所のみ訂正

【様式2】

手順2 実態・目標・支援

様式3に
自動で反映

【様式3】

手順3 評価・経年変化

※卒業時
記入箇所あり

「支援のための発達アセスメント」
【様式2】から入れます

【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部1学期
- 小学部2学期
- 中学部1学期
- 中学部2学期

【付録】支援・ケース会議等用

校内／他機関 連携シート

必要に応じて活用

様式2 参考資料

- 合理的配慮など支援方法のアイデア集①
(実態把握レーダーから検討)
- 合理的配慮など支援方法のアイデア集②
(子どもの課題・指導場面から検討)

【様式1】～【様式3】
印刷して完成

【付録】 校内／他機関連携シート

校内体制・ケース会議・他機関連携などで活用

1. 支援ニーズシートの作成

ここをクリック

校内体制・他機関との連携シート				記録							
名前				記入者		関係機関等	引継ぎ事項				
	個別の支援計画										
支援ニーズ				入学前							
作成			学年・学期の 計画・支援			学年	日時	組織・機関等	記録		
	学習意欲(関心・意欲・態度など)・あそび		個別の支援 計画・支援							個別の支援 計画	個別の支援 計画
	ことば(理解・発話)		個別の支援 計画・支援							個別の支援 計画	個別の支援 計画
校内体制・各機関の役割・支援内容				学年							
校内・組織・機関名		役割・支援内容等				個別の支援 計画	個別の支援 計画	個別の支援 計画	個別の支援 計画		

支援ニーズ

	Ⅲ段階	Ⅱ段階	Ⅰ段階	
① 生活動作・学習意欲	○	○	○	★
② 自己調整と社会性(行動・情緒・対人関係)	○	○	○	★
③ ことば(理解・発話)	○	○	○	★
④ 学習意欲(関心・意欲・態度など)・あそび	○	○	○	★

RTIモデル

Ⅲ段階 Selected
Ⅱ段階 Targeted
Ⅰ段階 Universal

その他 Excelの予測変換機能を解除したいとき

Excel のオプション

基本設定
入力単位(E): 2

- フィル ハンドルおよびセルのフラッグ アンド ドロップを使用する
- セルを上書きする前にメッセージを表示する(A)
- セルを直接編集する(E)
- データ範囲の形式および数式を拡張する(L)
- ガーベージコレクションを自動的に行う(F)
- オートコンプリートを使用する(A)
- IntelliMouse のホイールで倍率を変更する(Z)
- 時間がかかる操作が発生したときに警告を表示する
- 次の数 (単位: 1000 個) 以上のセルを処理する場合(O)
- システムの桁区切りを使用する(U)

小数点の記号(D): .

桁区切り記号(T): ,

カソルの動き:

- 論理順(I)
- 視覚順(V)

スクリーンショットにハイパーリンクを自動的に設定しない(H)

切り取り、コピー、貼り付け

- コンテンツを貼り付けるときに [貼り付けオプション] ボタンを表示する(S)
- [挿入オプション] ボタンを表示する(H)
- 挿入し、オブジェクトをセルと共に切り取り、コピー、並べ替えを行う(Q)

イメージのサイズと画質(S) 8x小『個別の...』

|| 標準用の編集データを継承する(C)①

OK キャンセル

[ファイル]→[オプション]→[詳細設定]
□ オートコンプリートを使用する
解除

編集一覽



【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』ツール Ver. 1.3

監修	佐藤 克敏 (京都教育大学教授)
	渡辺 実 (花園大学教授)
	南 晃二 (大阪府立住之江支援学校校長)
アドバイザー	Victoria Tarango (LADC教授)
編集	A ² 研究会 (窓口：岩山カイナ)
協力	大阪府教育委員会 支援教育地域支援整備事業 大阪府立支援学校 大阪市内幼稚園・小中学校・高校

カリキュラムマネジメントへのA²の活用

教科ごと 学習指導要領の段階判定

国語

- ・理解言語 [聞く]
- ・表出言語 [話す]
- ・読む
- ・書く
- ・対人関係
- ・(情動)

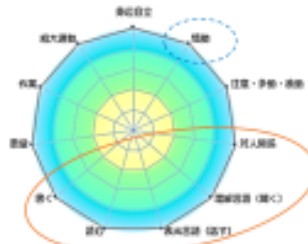
参考にしたいたい発達領域はこれ!



【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部1段階
- 小学部2段階
- 小学部3段階

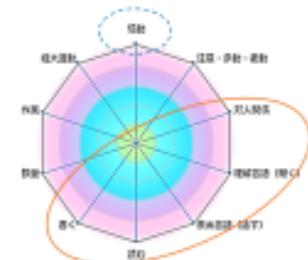
※ このA²の段階判定は、発達的な観点からの
判断となる、あくまでも目安です



【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部2段階
- 小学部3段階
- 小学部4段階
- 小学部5段階

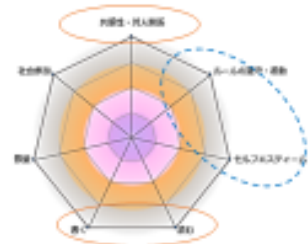
※ このA²の段階判定は、発達的な観点からの
判断となる、あくまでも目安です



【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部4段階
- 小学部5段階
- 小学部6段階
- 小学部7段階

※ このA²の段階判定は、発達的な観点からの
判断となる、あくまでも目安です



算数・数学

- ・理解言語 [聞く]
- ・数量
- ・(情動)

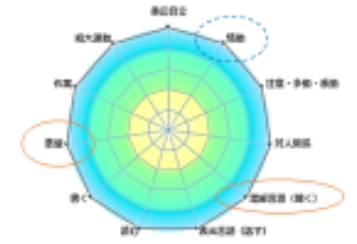
参考にしたいたい発達領域はこれ!



【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部1段階
- 小学部2段階
- 小学部3段階

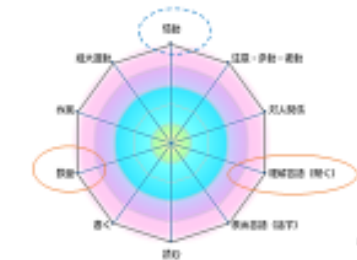
※ このA²の段階判定は、発達的な観点からの
判断となる、あくまでも目安です



【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部2段階
- 小学部3段階
- 小学部4段階
- 小学部5段階

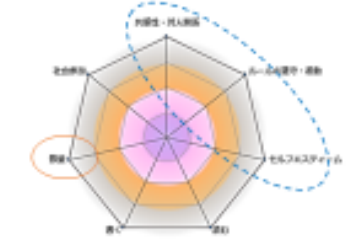
※ このA²の段階判定は、発達的な観点からの
判断となる、あくまでも目安です



【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部4段階
- 小学部5段階
- 小学部6段階
- 小学部7段階

※ このA²の段階判定は、発達的な観点からの
判断となる、あくまでも目安です



A²『個別の教育支援計画』 ツール



- お問い合わせ:T-IwayamaK@medu.pref.osaka.jp

岩山カイナ (A²研究会 事務局)

アドレスを直接メールに打ち込んでください
(リンクに不備)

引用・転載の際は、上記アドレスまでお知らせください
著作物の無断複製・改変などの行為は、著作権法の例外を除き禁止されています